

千葉県廃棄物処理施設設置等審議会

議 事 録

平成26年度 第1回

議題

- (1) 北越紀州製紙株の産業廃棄物焼却施設設置計画について
- (2) その他

平成26年度 第1回千葉県廃棄物処理施設設置等審議会 議事録

1 日 時

平成26年5月28日（水） 13:30～16:15

2 場 所

千葉県文書館6階多目的ホール（千葉市中央区中央4-15-7）

3 出席者

審議会：6名

事務局：大竹環境対策監、矢沢次長

廃棄物指導課：川嶋課長、石崎副課長、飯田室長、強口主幹、
小倉主幹、佐久間副主幹、宮腰主査、久保田主査、
分部副主査、石垣技師

環境政策課：宮澤副主査

葛南地域振興事務所：木村副主幹

環境研究センター：杉山主任上席研究員

4 議 事

(1) 北越紀州製紙㈱の産業廃棄物焼却施設設置計画について

(2) その他

5 議事要旨

(1) 北越紀州製紙㈱の産業廃棄物焼却施設設置計画について

平成26年2月21日に開催した平成25年度第3回千葉県廃棄物処理施設設置等審議会において、未回答であった委員からの意見について事業者より回答があり、その後、各委員からの追加で意見がなされた。なお、計2回の審議により本計画については個別協議とし、本審議会における審議は終了とした。

[平成25年度第3回審議会において未回答であった意見に対する事業者回答]

委員：夜間の拡散しにくく大気が非常に安定な状態で、有効煙突高がゼロで煙突からの排ガスがまっすぐマンションに向かうともっと高濃度になると想定されるので、大気安定度 F、G で計算してほしい。

事業者：マンション位置での大気予測の安定度について、前回 A～D についての予測を行っていましたが、今回安定状況である E、F、G を追加して再予測を行い、その結果最大濃度は大気安定度 D で出現しました。

委員：耐震性、耐風性の構造耐力上の安全性について、数値的な根拠を用いて説明してほしい。

事業者：大規模地震の震度6程度の数値 300Gal を想定し許容応力設計を行います。また、煙突については既設の煙突を流用しますが、風荷重が地震力を上回っているため風荷重を荷重条件にして建設時に強度設計を行っています。

委員：液状化による安全性について、定性すぎて分からないので既存資料等を用いて、この地点での加速度の数値を示し、設計における数値を十分クリアするので安全であることを示してほしい。

事業者：液状化判定の結果、液状化の可能性が示されたことから、設置許可後建設予定地の既存建屋解体後に改めてボーリング調査を実施し、その結果から液状判定を行ったうえで地盤改良を実施します。

○第1回審議会における各委員の意見及び事業者回答

委員：排出ガスの温度が維持できないと漂ってしまうと思われるので、温度の管理徹底をお願いしたい。

事業者：排出ガスは脱臭炉を経由して排出され、脱臭炉が停止すると焼却炉が停止することから、排出ガスが 250℃以下にはなりません。併せて施設の管理徹底を図ります。

委員：生活環境影響調査書の予測結果が、騒音規制基準 L5（90%上端値）と環境基準 L_{Aeq} のどちらで評価しているのか分かりにくいので明確にしてほしい。

事業者：整理して生活環境影響調査書を修正したい。

委員：様々なケースの事故発生が想定されることから、技術的な爆発防止、労働安全面の配慮等をお願いしたい。

事業者：別事業所で当該施設の管理の経験があるので、事故が無いように全社的にバックアップして運営していきます。

委員：今まで廃棄物であったものを製品として出荷していくので、製品の安全性、保管の安全性について検討・評価のうえ操業してほしい。

事業者：製品としての成分分析は継続して確認していきます。また、保管場についてもしっかりと管理運営していきます。

(2) その他

野田市南部工業団地内産業廃棄物焼却施設における改善等確認調査の結果について、概要報告をおこなった。